

## 平成21年度上半期における年度計画の進捗状況について

### 1 項目別の進捗状況

法人の各部署において上半期の進捗状況が正確に把握され、適宜スケジュールの見直し等を行うことを通じて、21年度計画が着実に達成されることを目指し、先般上半期進捗状況調査を実施いたしました。

その結果、21年度計画 319 項目のうち、「D評価：計画がかなり遅れており、21年度末までに達成できない可能性がある」は 0 項目でした。一方、「変更予定：計画の変更により実施の予定なし」は 3 項目あったものの、計画の大半はスケジュールに沿って、概ね順調に実施されていることが確認されました。

また、「C評価：計画にやや遅れが出ているが、21年度末までには達成見込みである。」は、45 項目と全体の 14.1%を占めていますが、これらの計画については、今後も特に進捗管理をしっかりと行ってまいります。

	項目	項目数	A	B	C	D	予定変更	C÷項目数
I	大学の運営に関する目標を達成するための取組	105	15	75	15	0	0	14.3%
II	地域貢献に関する目標を達成するための取組	10	0	9	1	0	0	10.0%
III	国際化に関する目標を達成するための取組	7	0	6	0	0	1	0.0%
IV	附属病院に関する目標を達成するための取組	141	9	113	19	0	0	13.5%
V	法人の経営に関する目標を達成するための取組	47	5	32	8	0	2	17.0%
VI	自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	3	0	2	1	0	0	33.3%
VII	その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	6	0	5	1	0	0	16.7%
	全 体	319	29	242	45	0	3	14.1%

- ・1つの年度計画が複数の中期計画に関連しており、複数箇所に記載されている場合、年度計画の評価は1つ分のみカウント。
- ・1つの年度計画に対して複数進捗状況が記載されている場合（計画の一部は達成できているが、未達成の部分もあるといったケース）は、進捗状況を全体的な視点から判断し、より適切に状況を示していると思われる方を選択してカウント。

#### 進捗状況

A→既に年度計画を達成済み。

B→年度計画を順調に実施しており、ほぼ達成あるいは順調に達成できる見込みである。

C→計画にやや遅れが出ているが、21年度末までには達成見込みである。

D→計画がかなり遅れており、21年度末までに達成できない可能性がある

予定変更→計画の変更により実施の予定なし

## 2 予定変更の項目について

上半期において、予定変更の取組は次の3項目となっています。下記以外でも取組に遅れが見られる計画については、下半期のスケジュールの見直しをするなど適宜調整を行い、年度計画の達成に向けた取組を着実に進めてまいります。

21年度年度計画	理由・今後の対応
<p>Ⅲ【留学生受入】</p> <p>◆ サマーサイエンスプログラムをさらに発展させて開講する。(国際総合科学部)</p>	<p>【予定変更】</p> <p>21年度はインフルエンザの流行により<u>プログラムを中止</u>にすることとなった。<u>来年度は開催を予定している。</u></p>
<p>V【任期制の導入】</p> <p>◆ テニユア教授制度のあり方について、様々な意見を聴取しながら、教員の任期制と調和の取れた制度の構築を図る。(人事課企画担当・調整担当)</p>	<p>【予定変更】</p> <p>中期計画においては、<u>任期付の現職教授の中から一定の審査を経て、定年まで任期の定めがなく在職できる「テニユア教授制度」を創設することとしている。</u>しかし、本学は全員任期制を導入しており、公募時に「<u>テニユア・トラック（一定の任期）</u>」を付して<u>期間中の研究業績を審査し、任期の定めがない専任教員として採用する一般的な「テニユア」制度を参考に、本学にふさわしい制度となるよう、第2期中期計画に向けて見直しを進めている。</u></p>
<p>V【職階の簡素化と昇任体系の構築】</p> <p>◆ 《実施済》 ＜中期計画＞ 講師と助教授の職を一本化した準教授を創設し、教授までの職階を簡素化する。 (人事課調整担当)</p>	<p>【予定変更】</p> <p>中期計画を受けて職位を一本化した<u>が、人事交流が活発な分野において、運用面で支障が生じているため、准教授と助教の間に講師を設ける予定である。</u></p>